

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103003
法人名	株式会社ユニケア
事業所名	アトラス堀江
所在地	松山市堀江町甲844番地6
自己評価作成日	平成28年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年1月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは瀬戸内海を一望できる堀江海岸に面しており、波の音と潮の香りに包まれながら、ゆったりとした時間の中で落ち着いた生活を送ることができます。職員は地域密着型サービスの意義を理解した上で、地域との交流を深めています。地域の行事や奉仕活動に利用者様と参加したりして地域の一員としての生活を大切にしています。月2回の外出ではマイクロバスを使用することもあり、ホーム全員でお出かけすることができます。また、協力医療機関である三好整形外科の支援、指導のもと、グループホームでありながら専門機器を設備し、効果的なりハビリを行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

居間と続き間のリハビリ室には、滑車やエアロバイク、マッサージ機等を設置し、自由に使用できるようにしている。居間や居室から海が見える。1日3回、日中に窓を開け換気している。  
 この一年の間では、亡くなったご主人の葬儀への出席を支援した。家族や友人宛ての手紙を職員が投函する等、サポートをしている。以前農業をしていた方には、系列事業所にある畑で野菜作りができるよう支援している。誕生日が近くなると、職員は家族に訪訪してほしい希望を伝えており、当日の家族の訪問につながっている。  
 月1回ミーティングを行っている。法人代表者は、年数回、女性職員と「女子会」を開き、悩みごと等を聞き取っており、子育て中の職員の勤務時間に配慮する等、働きやすい環境整備に取り組んでいる。勤続年数によって旅行のプレゼントもある。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アトラス堀江

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

越智 マリコ

評価完了日

平成29年 1月 10日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員が地域密着型と運営理念の意義を理解しており、定期ミーティングや朝の申し送り時に話し合いをして、仕事に取り組んでいる。理念は目のつく所に提示し、常に介護を振り返りながら実践に繋げている。	
			(外部評価) 「家族と地域と共に穏やかな生活を笑顔で過ごす」という理念をつくり、事務所内に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域主催の秋祭り等、地域行事には積極的に参加をしている。また、利用者様との散歩時に出会う方と挨拶を交わしたり、施設設備の補修を好意で手伝ってくれたり、日常的な付き合いへと発展している。	
			(外部評価) 年2回、福角保育園の園児の訪問がある。又、5月には、利用者が保育園へ訪問し、園児にプレゼントを渡して交流した。他グループホームの文化祭に出かけた。民生委員には「地域の高齢者で困っている事があれば、いつでも相談支援が出来る」事を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職員の受けた研修内容を運営推進会議等で地域の方に伝達したり、事例を踏まえて認知症高齢者の行動や支援方法を紹介している。夏祭りなどの行事では実際に利用者様と接する機会もあり、より理解を深めることができています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 現在、運営推進会議は2ヶ月に一回開催することができており、評価や意見をいただきながらサービスの向上に活かしている。東日本大震災後、津波を想定した災害訓練が課題となっていたが、地域の方の意見、協力をもとに対策が進んでいる。</p> <p>(外部評価) 会議時、利用者は自己紹介をしたり、協議内容について意見を出したりしている。家族には、会議参加を促したり、口頭で内容を報告したりしているが、参加にはつながっていない。次回の会議では、「メンバーの興味があること」を考えて、業者の協力を得て、おむつの種類、使い方等の講習を行う予定になっている。近所の駐在所の方の参加もあり、事業所付近や海岸での迷惑行為、無断駐車を取り締まりを依頼している。</p>	<p>さらに、テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、出席しやすい日程や時間帯についても配慮、工夫を重ねていってほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 解らないことや困ったことがあれば、都度市の担当者に相談をしている。また、自施設、他施設の運営推進会議の際にはサービスについて話をしたり、意見を聞きながら協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 施設長は市役所に出向いた際には、担当課に立ち寄り、最新情報を得よう努めている。12月には地域包括支援センター主催の介護教室に参加し、地域の参加者と交流した。城南高校福祉科の生徒の実習を受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関、窓の施錠はしておらず、誰でも自由に入出入りできるようにしている。職員は「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解しており、それ以外であっても、利用者様が不自由であろうと感じる行為については職員間でよく話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠していない。運営推進会議時に、身体拘束について地域の方と意見交換を行った。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について定期的に勉強会を開き、高齢者虐待防止法や、実例等について学んでいる。職員は日々の生活の中でも利用者様の精神面、身体状況を観察しており、虐待が見逃ごされることがないように努めている。また、虐待理由の一つである職員のストレスにも目を向け、会社全体で心のケアを行う取り組みをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	(自己評価) 権利擁護、成年後見人制度等、ミーティングを利用して学ぶ機会を設けている。実際に後見人制度を利用されている利用者様もおり、今後も必要な方がいれば活用できる支援体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には理解、納得を得られるように解りやすく、十分な説明を行うとともに、どんな些細な疑問や不安に対しても質問ができるよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族とは気軽に声を掛けあえられる関係作りに努めており、面会時にお話した内容は家族対応帳を活用して、職員全員が家族の要望を共有できるようにしている。ホーム入口には意見箱も設置し、些細な意見も反映できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 家族来訪時には、職員から近況報告を行い、事務所で施設長と話す時間も設けている。足遠い家族には、衣類の準備等のお願いをして足を運んでもらえるよう取り組んでいる。月1回「アトラス堀江だより」を作成し、利用者の暮らしの様子を発信している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) より良い運営、サービスを行うために職員同士が自由に意見を言い合える環境作りや機会を設けている。現在では会議以外でも意見や提案が多く上がったり、運営推進会議の議題について「こんな議題で話をしたい」といった声ができることもある。	
			(外部評価) 月1回ミーティングを行っている。法人代表者は、年数回、女性職員と「女子会」を開き、悩みごと等を聞き取っており、子育て中の職員の勤務時間に配慮する等、働きやすい環境整備に取り組んでいる。勤続年数によって旅行のプレゼントもある。職員は、気付いたことがあれば、その都度施設長と話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の努力、実績、勤務年数等が給与水準に反映され、各自が向上心を持って仕事をできるような仕組みになっている。また、職員個々の生活にも配慮がされており、勤務場所や勤務時間、勤務部署等の職場環境、条件整備にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 本人の経験や技量に合わせて、法人内外への研修参加を勧めるほか、職員本人の希望する研修へも参加できるよう調整している。職員会議では研修に参加できなかった職員のため、伝達講習の時間も設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターの連絡会や運営推進会議を通じてネットワークが広がっている。行事の際には相互訪問する機会も増え、利用者様から喜びの声も上がっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談での状況把握に努めており、本人の想いや求めていることに応えられるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に話をよく聞き、不安や要望を把握しながら、こちらからも解決していくための提案をして関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス開始時にまず何が必要であるか、優先順位を見極めた支援を行いながら、その他のサービスも複合的に柔軟な対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は介護者であると利用者様に感じさせないような対応に努めており、日々の生活のなかでも同じ目線、立場に立った接し方を心掛けている。お互いに助け合い、必要性を感じられる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との情報交換や相談する時間をできるだけ多く持ち、職員にできる支援、家族にできる支援とを明確にしながら共有して、一緒に本人を支えていける関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔馴染みの友人がホームを訪れたり、手紙や電話を利用して関係の継続を大切にしている。外出時には昔行っていた喫茶店や、親族が経営するお店等にもよく出掛けている。 (外部評価) この一年の間では、亡くなったご主人の葬儀への出席を支援した。家族や友人宛ての手紙を職員が投函する等、サポートをしている。以前農業をしていた方には、系列事業所にある畑で野菜作りができるよう支援している。誕生日が近くなると、職員は家族に来訪してほしい希望を伝えており、当日の家族の訪問につながっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は利用者同士の関係を把握し、歌が好きな人や相撲が好きな人など、お互いに共通する趣味を見つけて楽しく過ごせる場を設ける工夫をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後でも、現在の状況を把握するために訪問や電話をしたり、必要に応じてはいつでも相談を受けられるようフォローしている。最近では契約が終了した家族でも、馴染みとなった利用者様に会いに訪れることが多くみられた。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向をしっかりと受け止め、それに沿った生活を送れるよう支援している。自分から希望を伝えることが困難な方もおられるが、そういった方に対しても家族の情報やアセスメント、これまでの言動、表情などから本人本位に検討して支援を行っている。	
			(外部評価) 言葉が出にくい利用者には、ゆっくりかかわり、思いを汲み取るよう取り組んでいる。集めた情報は、アセスメントチェックシートやセンター方式の様式を使って記録している。「日々の記録」には、入浴、リハビリ、行っている家事(掃除)等の様子を細かく記載している。情報は、月1回のミーティングで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントやセンター方式、家族からの情報収集を行ってこれまでの暮らしを把握している。その他、ホームでの生活の中でも利用者様との会話や観察を行うことで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録や申し送りを十分に活用し、全職員が一人ひとりの生活、状態を把握できるよう努めている。また、職員が全ての利用者様と直接関わられるように、勤務時の役割にも工夫を行っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画の作成前には本人、家族からの意見や要望を聞いている。モニタリング後、職員会議にてカンファレンスを開き、それぞれの意見やアイデアをもとに介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 把握した情報を基に、利用者の出来る事、支援の必要な事を具体的に挙げて計画を作成している。月1回のミーティングで振り返り、情報共有している。3ヶ月毎に「モニタリング実践記録」にて評価を行い、計画見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の記録には生活の出来事や会話などを細かく記入し、職員会議では介護計画作成にも活用できている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況に変化があった場合、その時々に応じて何が必要であるか、何を行うべきかを職員間で話し合いながらサービスを行うよう努力している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) これまでに利用してきた地域資源を含め、新たな地域資源を増やししながら、より豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を図り、定期健診や必要に応じて受診を行っている。希望のかかりつけ医や専門医がある場合には、そちらへ受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 月1回協力医への受診を支援している。協力医には毎週利用者の健康状態をFAXで報告している。週1回、看護師の訪問があり、利用者の健康管理を行っている。眠剤使用中の利用者について、睡眠状態の改善がみられた際には、状態報告や減薬について相談をしている。薬剤の変更があった場合は、3日間は医師に状態報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員が日常的な健康管理を行っているが、変化や異常に気づいた際にはすぐに協力医療機関と連携し、看護師、または医師へ報告、適切な受診や看護を受けられる体制をとっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者様が入院した際には、度々病院へ出向いて情報交換を行い、早期退院へ向けた連携をとっている。また、利用者様にも安心して治療に専念してもらえるよう、病院での孤独感など感じないような支援を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り指針を作成しており、入所時の早い段階からホームでの看取り方針について説明をしている。、実際に重度化した場合には、状況の変化に応じて医師を交えた話し合いも行っている。全職員は看取りケアについての研修を受けており、終末期に向けた方針の共有に努めている。	
			(外部評価) ほとんどの家族は「ホームで最期まで過ごしたい」と希望しており、利用者3名は本人の意思で希望している。昨年1人の利用者の看取りを支援した事例がある。徐々に起きられなくなり、食事量が減ったため、家族、医師と今後の過ごし方を話し合った。好きなアイスクリームを食べて過したり、発語が出来なくなったら、ホワイトボードでの筆談や50音表を使ってコミュニケーションをとる等して支援した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアル、及び急変時・事故発生時に備えての研修を定期的に行っている。実際の急変時対応経験者もあり、十分に実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) これまでには火災や地震対策を中心に行っていたが、東日本大震災後、津波を含めあらゆる災害を想定した防災訓練を行っている。地域でも災害時の協力体制見直し強化されており、積極的に参加をしている。 (外部評価) 運営推進会議では、地震災害の対策について話し合うことが多い。近々、地域住民と夜間の地震想定で避難訓練を行う計画がある。事業所では、津波対策については、「ホームの3階に避難することが安全」と考えており、地域の方も使用できることを伝えている。熊本地震をきっかけに、水、乾パンの備蓄を始めた。	海岸沿いという立地条件を踏まえて、今後さらに、地域の災害対策の取り組みに参加したり、全職員が避難方法を身につけられるような取り組みを重ねてほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は個人的な考えや思い込みにとらわれず、利用者様一人ひとりの人格、思想を受け入れる姿勢で接している。言葉かけや対応にも十分注意し、プライバシーを傷つけないよう配慮している。 (外部評価) 利用者話し合い、それぞれ家事分担を決めており、個々に、掃除、ゴミ集め、洗濯干し、食器拭き等を毎日欠かさず行っている。訪問調査時、「ここはどこ、誰？」と職員に聞いている場面があったが、職員は、利用者と一緒に童謡を歌いながら、トイレ誘導や爪切りを行っていた。話好きな利用者の隣りには、聞き上手な利用者に座ってもらう等、利用者同士でオセロを楽しむように声を掛けて促しているような様子も見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中にゆったりとした時間を作り、利用者様が自分のペースで物事を決定していける環境づくりを行っている。希望の表出が難しい方でも、複数の選択から選べるような工夫をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活リズム、ペースに合わせた支援を行っている。共同生活のためホームでの決まり事もあるが、常に利用者様の希望を優先するよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれたり、お店で好きな洋服を購入したりと、その人に合わせた支援を行っている。自己表現が困難な方についても、昔の写真や何気ない行動の中から情報を得て、その人らしい身だしなみ、おしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本となる食事メニューは、食事担当者会議にて利用者の好みや季節の食材を取り入れて作られている。また、畑で作った野菜と一緒に収穫して食材に使うなどの楽しみも取り入れている。それぞれができることを準備から片付けまで、一緒に行っている。	
			(外部評価) 法人栄養士が献立を立てている。野菜は、家族からのおすそ分けや畑で採れたものを使い、季節感のある食卓となるよう取り組んでいる。調査訪問日には、利用者がレンコンの皮むきをしたり、下膳や食器拭きをしたりしていた。月1回、たこ焼き屋台が来ており、昼食として楽しんでいる。又、月2回のパンの移動販売では、翌朝食用のパンを買っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養面は担当者会議にてよく話し合い、バランスのとれた食事メニューとなっている。職員は一人ひとりの食事摂取量を把握しており、毎回記録へも残しながら状態に合わせた支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後実施できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人に合わせた時間帯でのトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 自立している利用者が多いが、トイレ誘導が必要な場合は、本人の排泄パターンに合わせた時間に支援している。リハビリをしてトイレまで自力歩行できるようになった利用者のケースでは、紙パンツから布パンツに変更できるよう支援しているところである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、飲食物には食物繊維、酵素の多いものを取り入れたり、リハビリや散歩を通じて腸を活発化させたりと工夫しながら予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日お風呂を沸かし、衛生面を考慮しながら2日に一度は入浴ができるように支援している。また、本人の希望によっていつでも入れるよう対応したり、入浴剤を入れてお風呂を楽しめるよう工夫している。	
			(外部評価) 入居前から浴槽に浸かる習慣のない利用者には、シャワー浴で支援している。浴槽のまたぎが困難な方には、職員が2人で介助して支援している。好みの湯温で入浴出来るよう、利用者ごとに調節して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活パターン、状況や希望に応じて休息を取り入れている。日中は軽い運動や日向ぼっこをして、夜間に気持ちよく眠れるような支援も行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬の効果、副作用などを一覧表にて誰もがわかるようにしている。自分で服用が難しい方には介助、確認も行い、常に状態に変化がないか観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの生活歴から、趣味や日課など、楽しみにされていたことは継続して行えるよう支援している。また、ホームでの生活の中で、新しい楽しみや役割を発見できるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1~2回、バスを使用してみんなで外出する機会を作っている。その他、希望者のみで喫茶店や買い物へ行ったり、他施設へ訪問して交流を深めたりもしている。ご家族の協力を得て、一緒に買い物へ行くなどの支援も行っている。	
			(外部評価) 日常的にはホーム横の海岸沿いを散歩している。「寿司が食べたい」「ラーメンが食べたい」等の希望があれば、後日全員で出かけられるように計画している。畑や病院受診の帰りにスーパー等に立ち寄り、買い物出来るように支援している。個人的にお墓参りや外食に行きたいという場合には、家族に連絡し依頼している。	本人本位のケアの視点から、外出支援に工夫してはどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望される方には自分でお金を所持していただき、買い物の際には適切に商品を購入できるよう見守り、支援を行っている。その他、お金の管理が難しい方にも、施設で開催するバザーや夏祭りなどで支払いができるような支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙など、希望があれば自由にしていただいている。電話の際には静かな場所へお連れしたり、手紙の際には切手購入や投函などがスムーズに行えるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地がよく落ち着いた生活が送れるように、ホーム内では一般家庭のような生活感を大切にしている。調理の音や匂い、窓から見える海の景色、飾りなども見慣れた物を置き、色や雰囲気など利用者様が心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 玄関入口にはビオラや葉牡丹を植えたプランターを整備し、玄関には干支の置物、シクラメンを飾っていた。居間と続き間のリハビリ室には、滑車やエアロバイク、マッサージ機等を設置し、自由に使用できるようにしている。居間や居室から海が見える。1日3回、日中に窓を開け換気している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホーム内の廊下には所々数箇所ソファが設置しており、一人で日向ぼっこをしたり、仲の良い者同士でお話したりできるような居場所作りをしている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 布団、ダンス、ベッド等は施設側で準備することもできるが、本人の使い慣れた家具や馴染みのある品がある方には自由に持ち込みをしていただき、心地よく安心した生活が送れるよう工夫している。	
			(外部評価) 鏡台で化粧をする方や自分で髭剃りをする男性利用者がいる。居室で趣味の編み物をする方もいる。通院日をカレンダーに印し、確認をしている方もいる。自分で衣替えする方には、職員が衣装ケースの上げ下げを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差の解消や手すりの設置は必要最小限とし、一人ひとりのできることを妨げない環境作りを工夫している。自立生活へ向けた支援を心掛け、職員が全てを行うのではなく、必要な援助をさりげなく行うことに努めている。	
			(外部評価)	